

腰曲がらず、家庭菜園も 織笠の小林ミツさん100歳に

10月20日、織笠の小林ミツさんが100歳を迎えられ、佐藤町長から長寿祝金の贈呈を受けました。小林さんは、宮古市磯鶏で、5人兄弟の長女として生まれ、4人の子どもと12人の孫、7人のひ孫に恵まれました。趣味は家庭菜園で、現在も自宅や近所の草むしりを行っているとのこと。休日には、お孫さんにドライブに連れて行ってもらっているそうです。腰が曲がらず一人で歩く姿に、佐藤町長は終始「すごい！」の一言。小林さんは「皆さんに支えられてありがたい」と、家族へ謝意を伝えました。



第12回やまだの花火大会 秋の夜空に咲く大輪の花

10月27日、山田漁港で山田町商工会青年部（中村尚司^{たかし}部長）主催の第12回やまだの花火大会が開催されました。会場では各種出店や織笠出身のミュージシャン・佐々木龍^{りゅうた}大さんなどによるステージイベントが行われ、多くの人が訪れました。また、今年はハロウィーンの開催ということで、仮装を楽しむ人も。来場者はいまかいまかと花火の打ち上げを待ちました。そして午後6時ごろついにスタート。訪れた人たちは、秋の夜空に轟音と共に咲く、約4千発の花火を楽しんでいました。

全国の旅行業者のツアー受け入れ 体験観光を存分にPR

10月27日に、（一社）日本旅行業協会（略称：JATA^{ジャタ}）の「JATAの道プロジェクト」が行われ、JATA会員約80人が本町を訪れました。これは「みちのく潮風トレイル」の整備活動などを通じ、東北地域の観光交流人口を増加させることを目的に行われているものです。参加者らはカキむきやか徳利作り、震災語り部による復興まち歩きなどを体験。昼食には山田の幸を味わい、本町の体験観光を存分に堪能していました。今回のPRIにより、新たな旅行商品の造成が期待されます。



豊中生が資源回収で得た益金で 町内福祉施設へ物品贈呈

10月23日、豊間根中学校（熊谷広克^{ひろかつ}校長）の生徒が、夏休み中に取り組んだ資源回収での益金で購入した物品の贈呈を、町内各福祉施設で行いました。生徒を代表して2年生の佐々木颯^{そら}さんが「夏休みの資源回収の益金で購入した歩行器です」と手渡すと、利用者の皆さんは「ありがとうございます。うれしいねえ」と笑顔で受け取りました。石峠宅老所の平山レイ子理事長は「中学生との交流は、少子化と高齢化社会の中、今までに無かったとてもいい機会だと思います」と話しました。



町のわたい

今月の題字 飯野 ^{のぞみ} 希海さん（大浦小3年）



鮭つかみどりを2年ぶりに実施 復興山田を味わうまつり

11月11日、山田漁港特設会場で復興山田を味わうまつりが開催されました。これは、来年行われる三陸防災復興プロジェクト2019の関連イベントとして開催されたものです。郷土芸能団体、お笑い芸人、山田民謡伝承会の皆さんによるステージイベントや農林水産物の販売などが行われた会場は、約3千人の来場者で大賑わい。また、2年ぶりとなる鮭つかみどりが行われ、参加者は水しぶきを上げながら楽しみました。大船渡市から訪れた佐藤吉汰君（7）は「サケはすごいパワーだった。おいしいそうなサケがとれました」と参加した感想を話しました。

船越公園で農業まつり開催 秋の味覚求め約3千人来場

気持ちの良い秋晴れとなった10月21日、船越公園で農業まつりが行われました。船越公園での開催は震災後初で、山田の農作物を求めて、会場には約3千人が来場しました。出店したのは町内外の15団体。本町の新鮮な山の幸はもちろん、町外の団体によるりんごの詰め放題には長蛇の列が。また、自衛隊によるカレーの試食コーナーも好評を博しました。バラエティ溢れる出店のほかには、山田吹奏楽団ややまだなかよしだんすくらぶなどのステージイベントが行われ、来場者は大満足の様子で年に一度の農業まつりを楽しんでいました。

